第二地連新聞

発行責任　第二地連議長　鈴木康司
編集責任　第二地連教宣部
東京清掃労働組合第二地連
2008年07月15日
創刊号

生命と権利、生活守る

「第二地連」横のつながり強め

2000年4月、清掃事業が23区に移管されました。移管された事により、本部の組織整備方針に基づき、4区5支部で構成する第二地連が新たに発足しました。

そしてこの間、地連として新たに現業部を立ち上げ、各支部での作業計画の状況等の意見交換をしています。

また、地連の強化を行うために、毎年一泊学習会を開催し、その中で各支部での意見交換・基調提起、フリートーク等で各支部での職場実態等、本音の議論をしてます。

更に、ソフトボール大会・釣り大会、ボーリング大会等を開催し、より一層の交流を行いながら、仲間作りをしています。また、必要に応じて学習会等を開催しながら情勢の正しい認識をして、闘う体制を強化しています。

最後に、第二地連として、今まで以上に、学習と交流を行い、横の繋がりをし、職場からの運動を強化します。そして、本部に結集して「生命と権利、生活」を守る為に、闘っていきます。共に頑張りましょう！

第二地連議長・鈴木康司

各職場の報告を熱心に聞く第二地連各支部の参加者

創刊号

荒北台文

第二地連各支部協力の下、『第二地連新聞（暫定仮称）』創刊号の発行である。わずか1ページというささやかな第一歩ではあるが、しかし確かな一歩として、今後の偉大な歩みへと続き、第二地連各支部を繋ぐ一つの場となってほしい。

このコラム欄も、様々な方々によって充実していくことを願う。【T】

一泊学習会参加報告集

荒川支部

今回、私は常任として、初めて第二地連一泊学習会に参加してきました。初日、普段あまり接することの少ない他支部の方々との交流会は、大変盛り上がりました。二日目の学習会では、サーマルリサイクル実施に伴って各区の現状が良く分かり、大変勉強になりました。次回、このような集まりがあれば参加し、今後の活動に生かしていきたいです。

【浦井英昭】

北支部

7月5・6日の学習会に参加してきました。

各支部の「20年度」総括の報告がありました。その中で、退職者不補充、定数削減による委託、職員の欠員分は、派遣や臨時職員での対応、またサーマルリサイクルでの、ごみ減による減員・減車は明らかです。当局の合理化攻撃と闘っていくため、地連、支部が団結していくことを学びました。【中村廣志】

北工場支部

北工場総人員35名の半数が区の職員で、定数が下がれば東京23区清掃一部事務組合職員が異動対象となる。同じ職場で働き続けることが困難で、技術技能継承がされないなど、問題を抱えている。

収集職場も委託化が進み、サーマルリサイクル実施による仕事増・人員削減から、働くことが困難な状況が報告された。賃金についても削減され、能力の無い者は昇給すらない格差社会に立たされている。

学習会に参加し交流することで現実の厳しさを知り、何とかしなければならない。

労働組合の強化以外にない。【小泉勝久】